

新年に向けた人々の想いや様子を世界の各地から。

● モスクワ (ロシア)

ロシア発見！

川崎重工業 大門基子

「ロシアに駐在してお得だったこと」として、(モスクワやペテルブルクなどの西部都市に限られるが) 欧州旅行がしやすい、という感想がよく聞かれる。

モスクワからだとローマやパリまで片道4時間で飛べる。ウィーンまでは3時間足らずだ。直行便も頻繁に出ているから、ちょっと週末を利用して欧州の諸都市を訪ねることが可能だ。いや、可能だった。2020年の3月までは。

3月に全ての国際線が運航を停止し、旅行はおろか海外出張もできなくなった。だんだん日が長くなり夏が近づくにつれ、ロシア国内でも「夏休みはどうしよう？」という議論が聞かれるようになった。

冬の厳しいロシアでは皆、夏休みを心待ちにしている。多くのロシア人が南欧やアジア諸国

への旅行を計画し、照りつける太陽の光を求めて飛んでいく。去年の夏までは当たり前だったそんなことが、いきなりできなくなってしまった。

結果としてロシアでも他の多くの国々と同様、旅行先として国内に目が向けられた。ロシアの強みはその広い国土で、面積は日本の45倍ある。行く場所はたくさんあるのだ。モスクワから極東のカムチャツカ半島まで、国内線で8時間半飛んでも、そこはまだロシア国内だ。カムチャツカには火山群があり、温泉が湧く。

シベリアの真珠と呼ばれるバイカル湖も良い。淡水湖としては世界最大の深度と、圧倒的な透明度を誇るこの巨大な湖は、季節ごとに全く違う表情を見せてくれる。

モスクワの南方、黒海沿岸にはソチなどの保養地があり、ロシアワインの産地も近い。この地域はフランスのワイン産地と緯度が近く、ワインの生産に適した気候なのだそう。

私自身は2020年の夏、北極圏に近い、フィンランドと国境を接する地域をのんびり旅してみた。駐在地のモスクワとは別世界の、まさ



北の国の夕焼け



旅の途中で出会った花垣